

表紙の人

消防総監表彰  
伊藤稜さん(法4)

迅速かつ的確な救命活動

心肺停止状態の男性(81)に的確な救護措置を行い、生命の危機に瀕した傷病者を救命したとして、中央大学法学部4年の伊藤稜さんが、2015年12月15日、東京消防庁の高橋淳消防総監から表彰された。



表紙の人

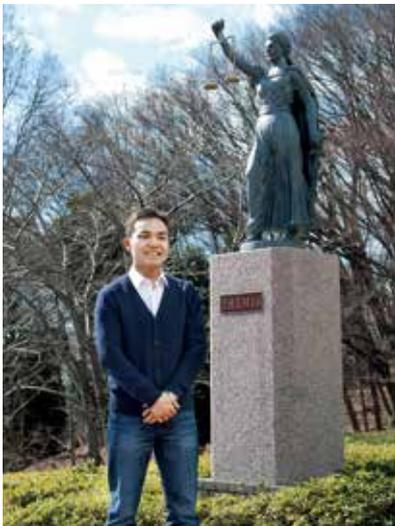
筒先ポンプ間の伝令役として走る。2番が伊藤さん（2014年港区消防操法大会）

# 命守れ…その時、鍛錬の成果みせた

## 消防総監表彰 伊藤稜さん（法4）

### 8分間、無駄なく一気

同年10月30日夜、東京・霞が関の法曹会館。



正義の女神「テミス像」の前で  
=多摩キャンパス

男性がパーティー会場で突然、意識を失って倒れた。そのとき、会場に居合わせた伊藤さんが、素早く、無駄なく、動いた。

総務省消防庁によると、救急車の平均到着時間は2014年度中、全国で8分36秒。東京消防庁で7分54秒。心停止から1分経過することに救命率は7～10%下がる。

伊藤さんの救急蘇生法は、こうだった。心停止状態の男性に呼びかけて反応があるかを確認した。ほぼ同時に複数の関係者が119番通報した。

次に男性の呼吸を確認すると、正常な呼吸がなかった。心臓マッサー

ジだ。強く、速く、絶え間なく続けた。マッサージをするときは、胸の真ん中を目安としている。

**強く＝胸が少なくとも5センチ沈むように。速く＝1分間あたり、最少でも100回のテンポで行う。絶え間なく＝中断は最小限度。**

続いて人工呼吸をした。気道を確保し、片手で男性の額を押さえながら、もう一方の手の指先を顎の先端に当てて持ち上げた。

準備ができた。1回に1秒かけて息を吹き込んだ。

心臓マッサージと人工呼吸を交互

## 就活にもプラス

に繰り返した。ここまで、わずか約8分間の救命・蘇生だった。

### 入団「社会の役に」

伊藤さんは、こうして男性の呼吸と意識を回復させ、駆けつけた救急隊に引き継いだ。男性は一命を取り留め、その後、職場に復帰した。助けられた男性は中大卒業生だった。

伊藤さんは東京・赤坂消防団第3分団に所属する学生消防団員。昨年4月1日に施行された「特別区学生消防団活動認証制度」により認証状を交付された1人である。

今回の蘇生は、この制度の施行後初の表彰となった。東京消防庁は、伊藤さんの活動を「迅速かつ的確で高く評価できるとともに、消防団の威信を高めた」と称えた。

消防団入りのきっかけは「新聞に折り込まれていた東京消防庁広報紙の団員募集を見て。大学入学後、何か社会の役に立ちたいと思っていました」。早速、最寄りの消防署に入団を志願。学生消防団員として消防・災害活動に従事している。

災害対応活動をはじめ、各種訓練活動、地域住民に対する防災指導などを実施しているほか、ポンプ操法大会が近づくと週3日、夜間や休日にも訓練。手引動力ポンプからホースを取り出し、約80m先まで全力疾走して、直ちに的確な消防活動を始める。

操作の技術を習得する一方、1秒でも速い迅速さを追求する。「消防操法大会」があり、2014年港区大会に仲間とともに出場した。

東京消防庁によると、東京23区の学生消防団員は500人超。「消防団員が減少し、平均年齢が上昇しているなか大学生、大学院生、専修学校生、各種学校生ら若い力の消防活動への参加が強く期待されている」(同庁)

認証制度には、学生の就職活動支援も含まれる。1年以上、継続的に消防団活動した学生団員を認証し、学生はその認証証明書を企業・団体などに提出できる。

採用側は、消防団員経験者が災害発生時に早期対応することで災害対応力の向上につながるとみている。



社会貢献への意識の高さも大いに評価されるところだろう。

伊藤さんは卒業後、法科大学院へ進学し、「将来は弁護士を目指しています」。今後も人を救う道を歩いていく。



操法を終え、チームメートとともに整列する。左から2人目が伊藤さん(2014年港区消防操法大会)

### ◎ 新聞3紙で「お手柄」

伊藤さんが表彰されたことは東京新聞、産経新聞、毎日新聞で紹介された。見出しは「大学OBの心肺蘇生 学生消防団員お手柄 港区の伊藤さんに消防総監感謝状」（東京）、「81歳男性を救命 学生消防団員を表彰」（産経）、「心配停止男性を手当て救命 学生消防団員を表彰」（毎日）。3紙いずれも表彰時の写真付きだった。



高橋消防総監（左）から表彰される伊藤さん＝東京消防庁提供

### ◎ 「なりたいもの」ベスト10入り

『大人になったらなりたいもの』アンケート＝第一生命保険調べで「消防士・救急隊」が男子9位となり、前年13位から上昇した。ベストテン入りは2013年の3位に次いで2年ぶり（別表）。

保育園・幼稚園児を対象にした2015年調査が1月7日に発表された。1位はサッカー選手、2位に野球選手、3位が警察官・刑事。消防士・救急隊は宇宙飛行士と並んで9位となった。調査は1987年から毎年実施。今回は全国の未就学児と小学1～6年生、計1100人を対象に行った。

順位	男子	順位	女子
1	サッカー選手(1)	1	食べ物屋さん(1)
2	野球選手(2)	2	保育園・幼稚園の先生(2)
3	警察官・刑事(3)	3	看護師さん(4)
4	電車・バス・車の運転士(5)	4	お医者さん(6)
5	大工さん(6)	5	学校の先生(習い事の先生)(4)
6	お医者さん(8)	6	歌手・タレント・芸人(3)
7	食べ物屋さん(7)	7	飼育係・ペット屋さん・調教師(12)
8	学者・博士(4)	8	デザイナー(9)
9	宇宙飛行士(10)	9	お店屋さん(14)
	消防士・救急隊(13)	10	ピアノ・エレクトーンの先生、ピアニスト(9)

( )内は前回順位



学生研究棟「炎の塔」前で  
＝多摩キャンパス